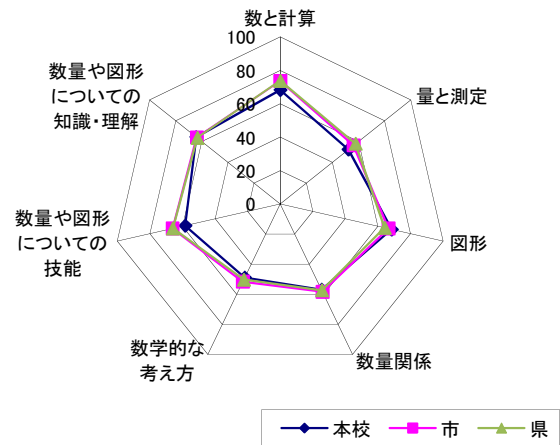


宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	73.6	73.7
	量と測定	52.3	56.2	57.7
	図形	68.5	66.5	64.2
	数量関係	57.1	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	49.0	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	58.4	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	64.3	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均値は、県の平均と比べて5.4ポイント低い。 ○数を0.01を単位とした相対的な数で表すことがよくできている。学習プリントを宿題として活用してきた成果と考えられる。 ●小数のわり算(割り切れるまで求める)と整数のわり算(商に空位、余りあり)を求めることに課題が見られる。	・今後も宿題として学習プリントを継続して出し、既習事項を復習させる。 ・朝の学習や宿題で計算問題を継続して出し、誤答の多い児童には個別指導を行い、技能の習得を図る。 ・授業で、わり算の基礎的基本的な計算の仕方を復習することにより、計算方法の定着と計算技能の向上を図っていく。
量と測定	平均値は、県と比べて5.4ポイント低い。 ○1㎡の正方形の面積を1cm ² の単位で表すことがよくできていた。授業で長さ(1mと1cm)と面積(1㎡と1cm ²)のちがいを説明したり、児童に説明させたりしてきた成果と考えられる。 ●正方形のタイルの面積を求めることと教室にある黒板のおよその面積を推測することに課題が見られる。	・今後も授業で長さと面積の関係について考えさせていく。また、体積との関係も関連させて考えさせることで、それぞれの関係の理解を図っていく。 ・教室にあるものを利用して、およその面積を考えさせることで、面積の概念がつかめるようにする。 ・学習プリントやドリル等を授業や宿題で活用し、面積の求め方の理解が図れるようにする。
図形	平均値は、県と比べて4.3ポイント高い。 ○直方体において、ある面と垂直な辺を選ぶことや立方体の展開図を完成させることがよくできていた。授業で直方体や立方体の箱を個々に用意させ、調べながら学習させた成果と考えられる。	・今後も身近にある立体を授業で問題を解決する時に使用し、立体への理解を図れるようにする。また、解答に対して「なぜ」「どうして」といった理由を説明することも授業に取り入れ、友達と一緒に考えさせることで説明する力も育成していく。
数量関係	平均値は、県と比べて同程度である。 ○式を読み取り、問題場面と関連付けて考え方を説明することがよくできていた。説明することを必要とする課題を授業で取り上げ、話し合いながら解決してきた成果と考えられる。 ●二つの量の関係を○と△を用いた式で表すことと複合図形の面積を求める場面で、図に適した式を選ぶことに課題が見られる。	・今後も授業で話し合いによる学習を継続して行い、説明する力を培っていく。 ・二つの量の関係を○と△を用いた式で表すことは、個別指導をていねいに行い、理解させる。また、比例の学習時にも取り上げ、図で表されたことを式で表すことが理解できるようにする。 ・授業で複合図形の面積の求め方を多様な方法で見つけることを行い、提示された図から式を導くことができるようにする。